

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム
大学名	北海道大学
担当部署	国際部国際交流課
コンタクト先	RJE-3@oia.hokudai.ac.jp

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>本プログラムは、極東・北極圏を対象として、北海道大学とロシアの大学・研究機関において蓄積された環境、自然災害、民族・言語・文化等のフィールド研究による実績とそのネットワークに基づき、極東ロシアの基幹5大学と北海道大学の複数大学院、北海道や極東ロシアの自治体、産業界の代表などで構成されるコンソーシアム（East Russia-Japan Expert Education Consortium、以下RJE3コンソーシアム）を構築し、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組みである。</p> <p>座学だけでなく、フィールドワークや分野横断的な学びを含む教育カリキュラムを通じて、多文化理解力・コミュニケーション力・企画、創造力が身につく本プログラムにおける、初年度から今年度までの学生交流数は、派遣学生114名、受入学生107名となり、本プログラムを通じた日露の学生交流は活発化してきたと言える。</p>

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	ロシア側の参加大学の5大学には、それぞれリエゾンデスクを置き、本学セントラルオフィスと常にスムーズに連絡を取れる体制を整えている。また年に1度、本学で行われるサマースクール時期に「国際運営委員会」を開催し、各協定校のリエゾンデスクメンバーが集まり、本プログラムに対する意見交換の場を設けることにより、さらなる連携がとれている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	本プログラムは4段階（準備科目-基礎科目-専門科目-発展科目）の教育システムによって成り立っており、その履修した科目によって、基礎科目修了証と共同修了証の授与基準をつくり科目担当者による評価と、母校及び留学先の両方の指導教員による評価を行うことによって、成績の透明性と客観性を確保するとともに、日露間の評価の標準化を図っている。また夏に本学において行われる「国際運営委員会」にて、教育システム上問題となっている点があれば議論し、決定していくこととしている。また外部評価委員会を設置し、当プログラムの学習成果の評価や単位互換が公正に行われているかを監視することとなっている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	本プログラムにおいて実施している太平洋国立大学との学生交流が発展し、北大工学院と先方大学建築デザイン研究科の間でコチュテルプログラムを結ぶこととなった。これにより、本プログラムの学部生向けの準備科目や次の段階である基礎科目を履修した学生が、博士課程において双方の教員からの共同の指導が受けられることとなった。
危機管理への対策	プログラム開始前には危機管理についてのオリエンテーションを行い、犯罪・事件、人災に巻き込まれないように注意喚起を行っている。また、本学はNPO法人海外留学生安全対策協議会(JCSOS)に加入しており、本プログラム参加学生についてもJ-TASへの加入を必須としている。また学生には危機管理マニュアルを配布し、出発前に海外生活の心得を熟読し、留学に対する危機管理に備えている。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	今までのプログラム実績によって、本プログラム内容は充実が図ることができている。このことは、学生に対して非常に意義と価値のあるプログラムであるといえるため、留学支援金が今までどおりになくとも学生が積極的に参加することが期待できる。またプラットフォーム構築事業が始まることにより、同事業の主旨に沿った内容に本プログラムを発展させ、同時に実施することによって予算の捻出を図る。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

<p>同大学での事業のため学内に調整。</p>
